OPINION 多論百出

一般社団法人森と未来 代表理事

小野 なぎさ

●おの なぎさ●
1983年東京都生まれ。東京農業大学森林総合科学科卒業。働く人の心の健康対策に携わった後、健康リゾートホテルの立ち上げや、海外で森林浴ガイド育成に従事。現在は森林浴を活用した企業研修、観光プランの開発などに取り組む。19年から林野庁林政審議会委員。著書に『あたらしい森林浴』（学芸出版社）

あなたにとって、森はどんな場所だろうか。森に入ったときに、気持ちがよいと感じたことが一度はあるだろう。漂う香りや、木々の隙間からこぼれる光、遠くでさえずる鳥の声や川のせせらぎ。何もしなくても五感に刺激が飛び込んでくる。目をつむりその世界をじっくり感じてみると、大きく深呼吸がしたくなる。

このような体験を、私たちは「森林浴」といっている。森林浴という言葉は、1983年当時の林野庁長官が提唱し、「森林にはフィトンチッドと呼ばれる殺菌作用を持つ揮発成分が存在し、森の中にいることで健康な体がつくられる」という理由から、樹木に接し精神的な癒やしを求める行為として広まってきた。

しかし、これをすれば森林浴という定義があるわけではなく、日光浴が太陽の光を浴びる行為であるとすれば、森林浴は森を浴びる行為。森の中でゆっくりと五感を使い、香りや音、景色を楽しみ、思い切り呼吸をして全身で森を浴びるということだ。

2000年代に入り、森林浴をおこなうことで免疫細胞が増え、病気の予防に役立つことが医学的に解明されている。太陽の光は骨の成長を促し、睡眠のリズムを整えてくれる。木漏れ日や鳥のさえずり、小川のせせらぎには、人間が持つ生体リズムのゆらぎと同調する1／fゆらぎ（注1）があり、心地よさを感じることができる。目に見えないこの森林浴の効果が、恒常性機能（ホメオスタシス）（注2）を取り戻し、私たちの身体をあるべき状態に整えてくれる。

コロナ禍で、各地のキャンプ場を訪ねる人が増えている。密を避け、開けた自然のなかでのんびりと過ごせる空間が求められている。自宅で一日中パソコンに向かいオンラインでの仕事を続ける日々は、人々の関心をより自然へと向かわせる。

これまで森林・林業における経済価値は、産業構造的に木材の価値を中心としてきた。木材の加工に関しては新しい技術が次々と誕生し、成長し伐期

を迎えた日本の木を積極的に使うための方法が生み出されている。一方で世界がいま伝えているメッセージは、「大量生産、大量消費をやめ、地球環境にとって持続可能な生き方を選ぼう」という考え方だ。「森のために日本の木を積極的に使おう」というメッセージは、持続可能な未来を選ぼうとする人たちに、果たして届くのだろうか。

サステナブルな生き方、自然を感じる暮らし、幸福、豊かさ、心地よさ、つながり。このようなキーワードからビジネスが生まれる。そんな時代のなかで、私は「あたらしい森林浴」を提唱している。森林浴は、健康への効果だけでなく、ウェルビーイング、幸福度、マインドフルネスなど、感性や心の豊かさを育むための、新しい価値となりうる。森から離れて暮らす人々にとって森は、木材としての価値以前に、森林としての魅力を感じられるのではないか。多くの生き物が暮らすことのできる森林、温暖化を防いでくれる森林、美しい水や空気を与えてくれる森林、心地よさを感じさせてくれる森林。永続的に循環する生態系サービス、四季の変化を感じられる空間。これらは人間社会がいま必要としているものではないだろうか。

森林空間が価値を生み出す森林浴を林業の範疇（はんちゅう）に含めても良いのではないか。国もこうした価値を健康、観光、教育などの分野で新たな産業にしようと「森林サービス産業」の検討を進めている。青々と広がる森林の空間にいるだけで価値を感じることができるのは、先人から山を受け継ぎ、大切に守り育て続けてくれた方々のおかげだ。

木材になってからだけではなく、その木が生きているさまを感じることも、これからは価値となる。木材として売る前に、森の心地よさを知ることで、自発的にこの木を使いたいという気持ちが生まれる。そして、この森のために何ができるだろうと共感の気持ちがわく。これまで森に関わりのなかったたくさんの人たちが森に目を向けることのできるような、新しい森林サービス産業が次々と生まれることを期待している。

注1　ろうそくの炎の揺れや木漏れ日、雨音などに現れる、規則正しさと不規則さが調和したパターンやリズムのこと。

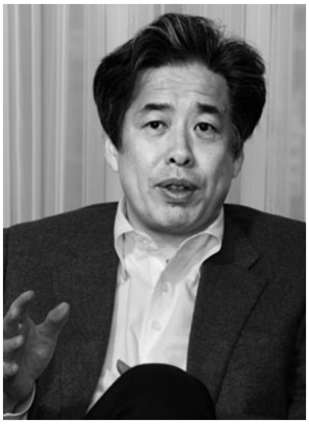
注2　生物の生理状態などが一定するように調節される性質。

林業という産業に森林空間が生む価値
足元の森林にしっかりと目を向ける

Forum Essay
フォーラムエッセイ

おい、みかんは大丈夫か!?

スポーツジャーナリスト
二宮 清純



にのみや せいじゅん
1960年愛媛県生まれ。スポーツジャーナリストとして五輪、サッカーW杯、ラグビーW杯、MLB、ボクシングなど国内外で取材活動を展開。広島大学特別招聘教授。著書に『歓喜と絶望のオリンピック名勝負物語』(廣済堂新書)、『プロ野球「衝撃の昭和史」』(文春新書)など。

私は愛媛県八幡浜市の生まれで、実家は農家です。水田や畑もありましたが、生産物の中心はみかんでした。

地元のみかんは、段々畑に照り付ける太陽が石垣にあたって反射することで甘みを増し、豊後水道から吹きつける潮風が風味を際立たせるといわれています。田舎の話をすると、都会の人からは「暖かくていいところですね」と羨ましがられますが、四国は山地が多いため、1月から2月にかけてはよく雪が降りました。

そんななかでの収穫作業は大変です。子どもの頃はよく手伝わされました。ハサミでみかんを摘み、袋に入れること自体は比較的、容易な作業なのですが、骨が折れるのは、そこからです。まずは木につるした袋から、みかんをコンテナと呼ばれる箱に移します。それを3箱か4箱程度一輪車に乗せ、幅数十㌢のあぜ道をトラックが待つ場所まで運ぶのです。

子どもにとって、この作業は重労働です。雪でも降ろうものなら、足を滑らせ、下の畑に一輪車ごと真っ逆さまです。私も何度か積雪に足をとられ、みかんもろとも転落したことがあります。

その時の父親の怖かったこと、怖かったこと。「おい、みかんは大丈夫か⁉」。子どものことなんてお構いなしです。こちらはベソをかきながら、畑に転がったみかんを一つ一つ拾い集め、箱に詰め直さなくてはなりません。

積雪の日は手が凍え、足がかじかみます。しかし、それをやり終えないことには、その日の収穫作業は終わらず、家には帰れません。お風呂に入ることも、夕飯にありつくこともできないのです。

だから私は冬が嫌いでした。父親には、長男である私に跡を継いでもらいたい、という思いもあったようです。それもあって「厳しく育てたんだ」と語っていました。

結果として、私は家を継ぎませんでした。その選択が正しかったのかどうかはともかく、農業後継者が不足している、というニュースを見聞きするにつけ、胸が痛む今日この頃です。

コロナ禍で景況感は大幅に悪化 設備投資マインドは高い水準を維持

—農業景況調査（2021年1月調査）—

農業資金をご利用いただいているお客さまに協力をいただきました。最近の農業の景況およびコロナ禍による影響を調査しました。

景況調査

景況DIはマイナス値に

2020年通年（1～12月）の農業全体の景況感を示す農業景況DIは▲24・9となり、19年実績である6・0から30・9ポイント低下し、マイナス値となりました（表）。

業種別では、稲作（北海道：2019年実績の26・5から30・1ポイント低下し▲3・6、都府県：11・4から44・8ポイント低下し▲33・4）、畑作（31・6から63・9ポイント低下し▲32・3）、果樹（7・5から24・3ポイント低下し▲16・8）、酪農（北海道：30・3から49・6ポイント低下し▲19・3、都府県：8・4から24・8ポイント低下し▲16・4）がプラス値からマイナス値に転じました。

肉用牛（▲0・2から43・7ポイント低下し▲43・9）、施設花き（▲20・2から20・0ポイント低下し▲40・2）、茶（▲53・1から24・9ポイント低下し▲78・0）については、昨年の通年実績がマイナス値であったところからさらに悪化しました。いずれも20年前半に、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外食需要の喪失や各種イベントの中止などで、価格が下落したことが影響していると考えられます。

一方で、養豚は▲4・1から48・4ポイント増加し44・3とプラス値に転じました。外出自粛で内食需要が増加、価格が上昇したためと考えられます。ブロイラーは14・7から8・3ポイント低下しましたが6・4とプラス値を維持しています。

農業全体の販売単価DIは、▲6・9から35・3ポイント低下し、▲42・2となりました。業種別では、養豚、ブロイラー、果樹を除いた業種でマイナス値となっており、特に茶（▲63・5から14・5ポイント低下し▲78・0）や肉用牛（▲21・5から41・1ポイント低下し▲62・6）、稲作（都府県：13・4から78・3ポイント低下し▲64・9）が大幅なマイナス値となりました。

販売単価DIの低下に伴って、収支DI（▲1・5から26・1ポイント低下し▲27・6）と資金繰りDI（0・4から16・7ポイント低下し▲16・3）も、大幅に低下しています。

生産コストDIは▲38・8から2・6ポイント上昇し▲36・2となりました。小幅に改善しつつも引き続き大幅なマイナス値で推移しています。

さらに悪化し、厳しい見通し

2021年見通しの農業景況DIは▲32・4となりました。20年通年実績の▲24・9からさらに悪化する見通しです。厳しい見通しとなった理由として、新型コロナウイルス感染症拡大による今後の影響が見通せないことが考えられます。

業種別では、稲作（北海道：▲3・6から58・0ポイント低下し▲61・6、都府県：▲33・4から10・4ポイント低下し▲43・8）、施設花き（▲40・2から9・2ポイント低下し▲49・4）が特に悪化し、大幅なマイナス値となっています。稲作の悪化要因として、主食用米の在庫増や米の取引価格低下が懸念されていることが挙げられます。

茶（▲78・0から30・6ポイント上昇し▲47・4）、施設野菜（▲28・1から3・8上昇し▲24・3）、肉用牛（▲43・9から31・5ポイント上昇し▲12・4）、採卵鶏（▲43・8から14・7ポイント上昇し、▲29・1）、酪農：都府県（▲16・4から13・0ポイント上昇し、▲3・4）は、見通しは回復するもマイナス値が継続しています。

景況調査

表　各種DIの推移

業種／時点		景況DI 2019年実績	景況DI 20年実績	景況DI 21年見通し	販売単価DI 19年	販売単価DI 20年	収支DI 19年	収支DI 20年	資金繰りDI 19年	資金繰りDI 20年	生産コストDI 19年	生産コストDI 20年	雇用状況DI 19年	雇用状況DI 20年	設備投資予定ありの比率 2020年	設備投資予定ありの比率 2021年
農業全体		6.0	▲24.9	▲32.4	▲6.9	▲42.2	▲1.5	▲27.6	0.4	▲16.3	▲38.8	▲36.2	▲34.9	▲32.0	44.3	46.1
耕種	稲作（北海道）	26.5	▲3.6	▲61.6	▲2.4	▲48.3	17.9	▲1.8	7.9	▲1.5	▲40.4	▲33.7	▲36.9	▲38.4	43.2	42.3
	稲作（都府県）	11.4	▲33.4	▲43.8	13.4	▲64.9	4.5	▲38.5	4.9	▲22.0	▲19.3	▲30.8	▲29.5	▲28.4	49.1	51.2
	畑作	31.6	▲32.3	▲34.1	▲8.6	▲57.5	29.0	▲37.4	14.7	▲15.4	▲45.6	▲41.5	▲42.7	▲37.5	53.1	52.7
	露地野菜	▲9.3	▲32.8	▲35.2	▲43.1	▲42.2	▲18.4	▲36.9	▲13.5	▲27.6	▲53.1	▲44.7	▲38.2	▲36.2	38.1	43.1
	施設野菜	▲22.4	▲28.1	▲24.3	▲31.2	▲34.4	▲27.2	▲29.2	▲19.3	▲25.2	▲57.6	▲46.0	▲30.1	▲24.9	33.3	35.7
	茶	▲53.1	▲78.0	▲47.4	▲63.5	▲78.0	▲54.0	▲76.3	▲40.5	▲48.3	▲51.6	▲25.4	▲39.5	▲29.7	31.2	35.1
	果樹	7.5	▲16.8	▲21.8	15.7	3.1	▲4.9	▲25.3	2.0	▲11.8	▲48.1	▲40.2	▲36.0	▲31.6	34.2	42.4
	施設花き	▲20.2	▲40.2	▲49.4	▲25.3	▲48.0	▲22.3	▲38.2	▲15.2	▲32.9	▲55.7	▲40.2	▲29.9	▲26.7	35.4	38.4
	キノコ	▲23.2	3.0	▲13.4	▲46.4	▲4.5	▲30.5	4.4	▲29.0	▲6.0	▲56.6	▲44.8	▲42.0	▲34.9	36.8	50.7
畜産	酪農（北海道）	30.3	▲19.3	▲19.3	33.0	▲37.8	17.6	▲24.3	24.9	▲12.0	▲37.1	▲45.4	▲38.7	▲31.9	43.7	40.8
	酪農（都府県）	8.4	▲16.4	▲3.4	34.2	▲23.7	▲3.6	▲14.5	1.6	▲6.7	▲46.6	▲38.5	▲35.3	▲27.5	42.2	45.1
	肉用牛	▲0.2	▲43.9	▲12.4	▲21.5	▲62.6	▲7.3	▲48.4	0.7	▲25.6	▲37.4	▲30.9	▲32.9	▲33.2	48.5	42.0
	養豚	▲4.1	44.3	▲2.0	▲24.5	52.8	▲7.8	47.0	2.3	37.7	▲24.7	▲19.1	▲29.8	▲26.3	50.2	54.0
	採卵鶏	▲38.9	▲43.8	▲29.1	▲53.2	▲57.5	▲46.0	▲40.6	▲28.6	▲32.3	▲46.9	▲41.7	▲38.9	▲33.3	52.4	56.8
	ブロイラー	14.7	6.4	▲8.9	▲28.3	5.1	5.4	8.9	17.4	5.0	▲28.0	▲20.3	▲37.4	▲21.8	58.7	49.4

【DIについて】アンケートの各項目の回答は、「①良くなった　②変わらない　③悪くなった」から一つ選ぶ形式となっており、前年と比較して「良くなった」の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いたもの。

20年通年実績がプラス値だった養豚（44・3から46・3ポイント低下し▲2・0）、ブロイラー（6・4から15・3ポイント低下し▲8・9）、キノコ（3・0から16・4ポイント低下し▲13・4）は、見通しが悪化し、マイナス値となりました。

20年通年実績の雇用状況DIは▲32・0となりました。19年実績の▲34・9から小幅ながら改善しつつも、引き続きマイナス値で推移しました。雇用状況DIの調査を開始した15年より、全業種で大幅なマイナス値が続いており、依然として深刻な労働力不足の状況にあることがうかがえます。

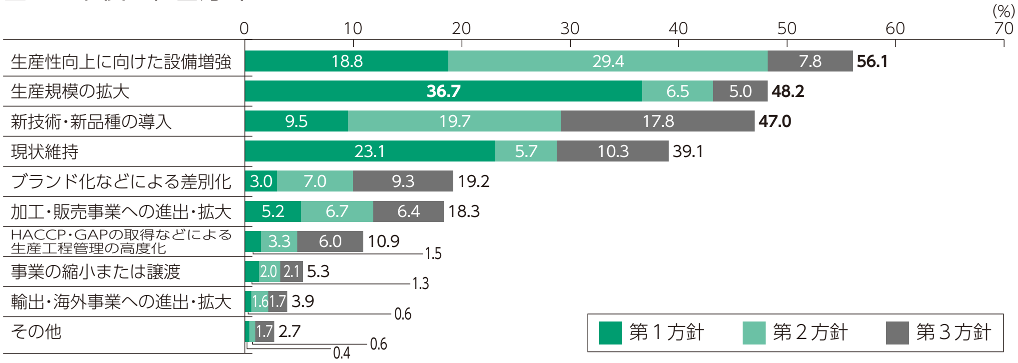
高い投資マインド

2021年の設備投資予定について、「設備投資予定あり」と回答した割合は46・1％となりました。前年の44・3％から小幅の増加となっています。この数値は直近10年数値のなかでは3番目に高く、投資マインドは高い水準が続いていることがうかがえます。

「2021年に設備投資予定あり」と回答した者に対して、今年の設備投資額の増減見通しを聞いたところ、「昨年に比べ増加する」との回答が48・8％と約半数を占めました。「同程度」は34・0％で、合わせると82・8％となり、設備投資額の面からも積極姿勢であることがうかがえます。

今後の経営方針について、第1～第3方針まで聞いたところ、第1方針で最も高い割合となったのは「生産規模の拡大」（36・7％）で

図1　今後の経営方針



した図1。また第1～第3方針までの回答を積み上げて比較すると、「生産性向上に向けた設備増強」の割合が56・1%と最も高くなり、次いで「生産規模の拡大」（48・2%）、「新技術・新品種の導入」（47・0%）が続きました。これらの経営方針の実現には設備投資が必要であり、高い投資マインドにつながっているものと考えられます。

コロナ禍の影響

半数超にマイナスの影響

新型コロナウイルス感染症拡大による売上高への影響については、「マイナスの影響がある」と回答した経営体は全体の64・6%と半数を超えました図2。また「ほぼ影響はない」とした回答は27・6%、「プラスの影響がある」とした経営体は3・6%という結果となりました。

業種別では、「マイナスの影響がある」とする割合は、茶（90・1%）、肉用牛（86・2%）、施設花き（74・2%）の順に高くなっており、これらは景況DIのマイナス幅も大きい業種となっています。

一方、景況DIがプラス値となった養豚、ブロイラー、キノコは「プラスの影響がある」「ほぼ影響はない」とする割合を合わせると、養豚が83・3%、ブロイラーが67・1%、キノコが56・0%といずれも半数以上となりました。さらに養豚は「プラスの影響がある」とする割合が38・4%と他業種と比べて高くなっています。

新型コロナウイルス対策で活用した支援策については、「経営継続補助金」が最も高く36・4%となり、次いで「中小企業持続化給付金」が25・0%、「感染防止対策」が16・9%となりました。

「特に活用していない」とする割合は33・5%となりました。

業種別に見ると、耕種農業では、畑作および露地野菜で「経営継続補助金」とする割合が最も高くなりました（畑作：52・8%、露地野菜：50・4%）。

茶では「中小企業持続化給付金」（50・4%）が、キノコと稲作（都府県）では「特に活用していない」（キノコ：42・4%、稲作都府県：39・0%）とする割合が最も高くなりました。

畜産農業では、肉用牛以外の業種で「特に活用していない」とする割合が最も高く、いずれも半数以上となっています。肉用牛については「コロナ無利子融資」（36・0%）とする割合が最も高く、次いで「中小企業持続化給付金」（35・5%）、「経営継続補助金」（32・4%）となり、さまざまな支援策の活用が見られました。

コロナ禍により取引量が増加した販売先について聞いたところ、「特に変化はなかった」とする割合が最も高く72・7%となりました。取引量が増加した販売先としては「市場・農協への出荷」の割合が最も高く9・8%、次いで「小売業者（スーパーなど）」（8・0%）、「インターネット販売」（6・8%）が続きました。

業種別では、多くの業種で「特に変化はなかった」が最も高くなっていますが、採卵鶏は「小売業者（スーパーなど）」とする割合が41・8%と最も高くなりました。

果樹はネット販売に積極姿勢

インターネット販売に対する取り組みについては、「既にインターネット販売に取り組んでいる、またはこれから始めたい」とする割合は43・0%となり、インターネット販売への関心が一定程度あることがわかりました図3。「インターネットを用いた販売に関心がない」とする割合は57・0%となっています。

業種別に「既にインターネット販売に取り組んでいる、またはこれから始めたい」とする割合を見ると、果樹（65・4%）、施設花き（56・3%）、採卵鶏（53・3%）の3業種で半数以上となりました。インターネット販売への取り組みにより積極的であることがうかがえます。

今回ご紹介した内容を含む調査結果に関する資料は、当公庫ホームページに掲載をしております。「日本公庫 農業景況調査」で検索してください。

（情報企画部　高田 圭介）

【調査概要】
●調査時点・方法
2021年1月・郵送調査
●調査対象
スーパーL資金／農業改良資金融資先（計1万8060先）
●有効回答数
5786先（回収率32・0%）

注：本文および表中にある▲は、マイナスを示します。

コロナ禍の影響

図２　売上高への影響

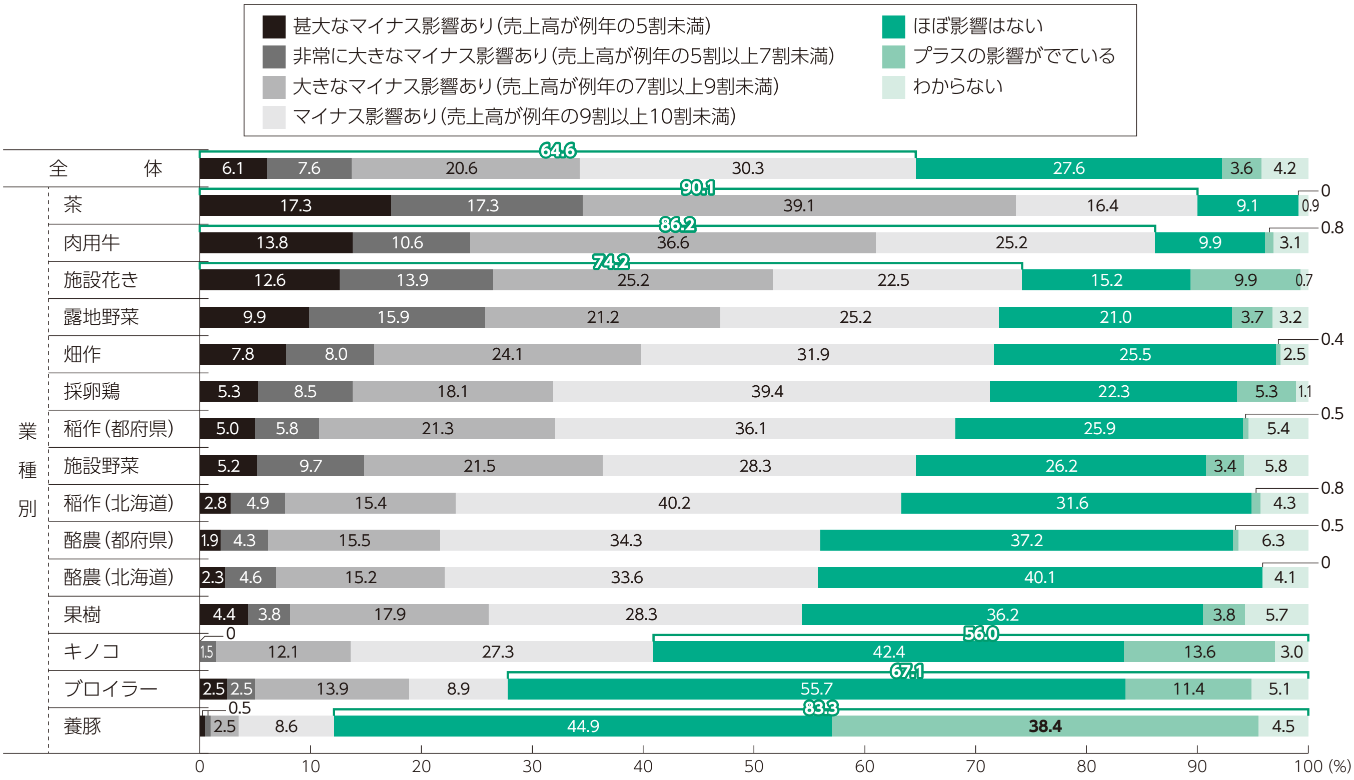
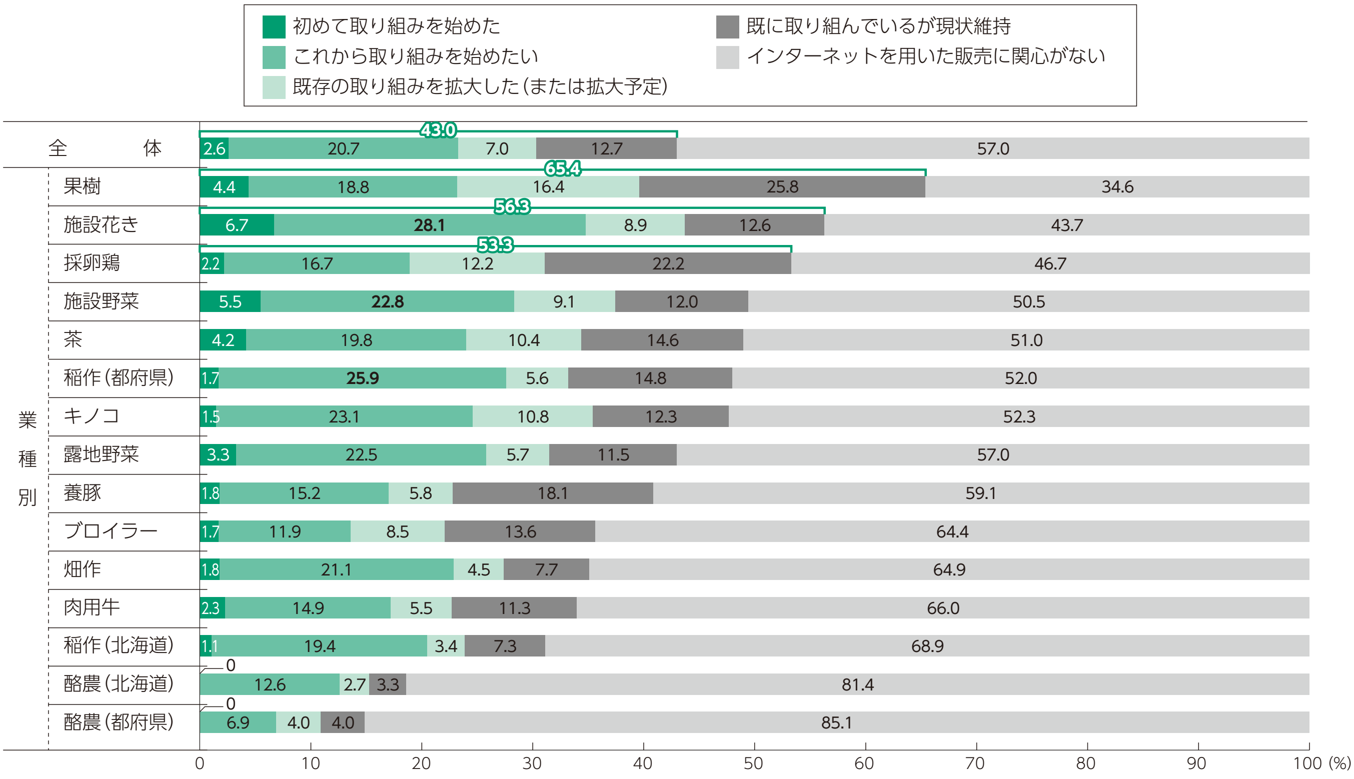


図３　インターネット販売への取り組み



農産物中の放射性セシウム

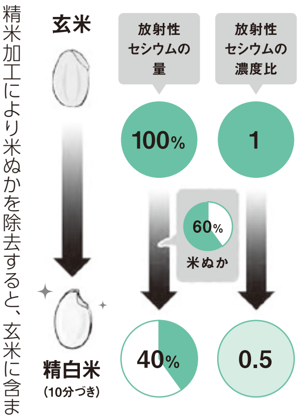
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
食品研究部門 食品流通・安全研究領域 食品安全・信頼グループ 主席研究員
八戸 真弓

2011年に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故（原発事故）により、私たちは国内で発生した放射性物質による農産物汚染を経験しました。農産物を含む食品の安全性が懸念されましたが、放射性物質についての基準値の制定や網羅的な検査計画・体制が整備され、農林水産省が公表している「農産物に含まれる放射性セシウム濃度の検査結果」によると、基準値を超過して市場流通を止められた農畜水産物の割合は、11年度で3・4%、12年度以降は0・001%〜0・02%であり、原発事故の直後から既に低い水準であったことがわかります。

放射性物質による農産物の汚染経路は大きく三つに分けられます。表面に直接沈着する経路と表面沈着後に内部に浸透し転流する経路、根部を介して内部に移行する経路です。作物内に転流・移行した放射性セシウム（以下、RCs）の一部は、玄米や小麦、大豆、玄そばなど可食部にあたる部位にも移行します。穀粒1粒内の分布を調べると、RCsは粒内に均一に分布しているわけではなく、各部位により分布に濃淡があることがわかりました。

農林水産省は、11年12月に「平成23年産米に由来する米ぬか等の取扱いについて」において、米ぬかの濃度は玄米の8倍として取り扱うことを公表しています。この数字は、玄米粒中でのRCsの濃度分布に基づいて導かれました。11年産の玄米粒におけるRCsの分配割合は、ぬか層が約48%、胚芽が約6%、および胚乳が約43%でした。

一方、各部位の玄米粒に対する重量割合は、ぬか層が約6%、胚芽が約1%、胚乳が約90%でした。玄米に含まれるRCsの54%が質量比7%の米ぬか（ぬか層+胚芽）に、43%のRCsが質量比90%の胚乳に分布することになり、胚乳よりも米ぬかのRCs分布がより高濃度でした。つまり、精米加工により精白米と米ぬかに分けると、玄米に対する精白米のRCs濃度は約0・5倍に低下しますが、米ぬかでの濃度は玄米よりも約7倍高くなります。



精米加工により米ぬかを除去すると、玄米に含まれるRCsは最大60%が除去される

このように、玄米のRCs濃度を測定すれば、放射能濃度を調べなくても、精白米や米ぬかのRCs濃度を推定でき、さらに調理による濃度の変化率や分量比などがわかれば、調理後のRCs濃度も同様に推定できます。

原発事故後、農研機構食品研究部門などにおいて、国内産の農畜水産物の加工調理によるRCsの動態に関する研究成果が蓄積されてきました。これらの研究成果は、今後、不測の放射性物質の環境への放出が生じた際に、食品のリスク管理の観点において役立つ情報となります。

Profile

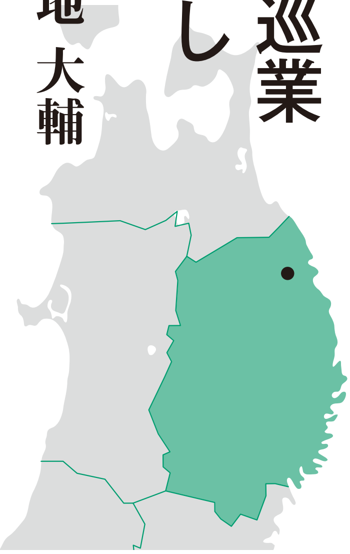
はちのへ まゆみ
2005年筑波大学大学院博士課程修了。13年農研機構食品総合研究所任期付研究員、農研機構食品研究部門主任研究員を経て、21年4月より現職。

連載　地域再生への助走

まちづくり　むらづくり　ドットコム .com

「久慈まめぶ部屋」力士が全国巡業 郷土料理「まめぶ」でまちおこし

岩手県久慈市
荷軽部青年会 会長　谷地 大輔



豊かな地域文化に抱かれて

「まめぶ」をご存知ですか？

これは、岩手県久慈市山形町（旧、山形村）の郷土料理で、昔から婚礼のときなどに食べられていたハレの食べものです。この「まめぶ」を全国区に広げ、地域のファンを増やすことで、まちおこしにつなげています。

「まめぶ」とは、煮干しと昆布で出汁を取り、ゴボウ・ニンジン・シメジ・油揚げ・焼き豆腐・カンピョウを入れ、しょう油で味を調え、煮立った汁に、小麦粉の生地で黒砂糖とクルミを包んだ小麦だんごを、加えて煮込んだものです。味は、「あめえんだか、しょっぺえんだか」「おやつなんだか、おかずなんだか」わかりません。「まめぶ」は手間暇がかかるため地域でも忘れられつつあった存在といっても過言ではありません。

私たちの住む荷軽部集落は、山形町の中央部西側に位置しています。住民262人、うち65歳以上の割合を示す高齢化率は43・35％という小さな集落で、基幹産業は農林業です。主要農畜産物ではブランド牛の山形村短角牛、ホウレンソウ、シイタケなどがあります。また木炭の品質が評価され、内閣総理大臣賞を受賞した炭焼き工場があるなど製炭・林業も盛んです。

もともと、住民同士まとまりがあり、「和と連帯」をモットーにコミュニティーを育んでいる地域性豊かな連帯感あふれた集落だと自負しています。例をあげましょう。毎年開催される山形町内の地区対抗体育大会は、5月のゲートボール大会から始まり、ソフトバレーボール大会、壮年ソフトボール大会、パークゴルフ大会、11月の綱引き大会で締めくくられます。競技得点と参加得点の総合で順位が決定しますが、荷軽部集落は持ち前の団結力で、これまで35回開催されたうち25回も総合優勝を勝ち取っているんです。

70年程前に結成された荷軽部青年会は、荷軽部自治会と連携して集落活動の中心を担っています。自治会は、主に中年世代が組織の長となり、青年会が運営を担っています。青年会は、道路の草刈りなどの環境保全活動はもとより、1972年から『ニカルベタイムス』という地域新聞を年4回発行し、集落全90戸に配布しています。2020年度に200号を迎えました。48年間、地域の情報を発信し続けています。さらに、総会や懇親会は自治会が主催し、盆踊りの運営や集落センターの管理は青年会が担当しています。懇親会や収穫祭など多くの地域住民が集まる場においては、住民各々が収穫・加工したものを持ち寄り、地場産品を使用した料理が提供されています。

荷軽部集落でも少子高齢化や人口減少が進んでいますが、地域活性化のために自治会と青年会が互いに連携して各種行事などの地域活動を積極的におこなっています。このことが次世代を担う若い世代の住民の育成にもつながってい

ると信じています。

「まめぶ」で知名度が急向上

２００６年の市町村合併によって地域の活力が低下したという声が出始めました。そこで「食」でなにか活動ができないかと、久慈市観光物産協会の協力を得て、青年会で調査をしたところ、「まめぶ」がなんと山形町だけで食べられていたことがわかりました。そこで青年会の有志により、10年に郷土料理「まめぶ」の伝承活動を通して地域活性化をめざす地域づくり団体「久慈まめぶ部屋」が結成されました。

名前の由来ですが、山形町は相撲が盛んで、同町出身の郷土力士である元小結・栃乃花の生誕地であることから付けました。

まめぶ部屋に所属するメンバーは、地元の子どもたちにふるさとに愛着を持ってもらうため、「まめぶ」づくり教室を開催し、郷土料理の伝承活動を図っています。さらには、大相撲のように全国を巡業しています。

全国巡業とは、全国各地で開催される物産展に参加することです。海外では、台湾でのイベントに参加したこともあります。巡業時は、訪れた先の食材で「まめぶ」をつくり、相撲取りの格好をして、多くの人に「まめぶ」を紹介しています。

震災炊き出しからご縁

東日本大震災発生の翌日には、久慈市内の避難所で「まめぶ」の炊出し活動を開始しました。困った時はお互い様という精神です。まめぶ部屋のメンバーは結束し、半年間、毎週土日に、総数一万食を用意して岩手県沿岸部と宮城県の一部の被災地に荷軽部集落の温かい味と元気を届け続けました。この被災地巡業活動から、地道なまちおこし活動が知られるようになり、うれしいご縁がありました。

「ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛Ｂリーグ）」に認められ、祭典である「Ｂ－１グランプリ」への出展資格を得ることができたんです。11年に兵庫県姫路市で開催されたＢ－１グランプリに「久慈まめぶ部屋」は初出展。残念ながら上位入賞はかないませんでしたが、久慈市の元気を、全国からの来場者にアピールすることができました。

profile

谷地 大輔　やち だいすけ

1985年神奈川県横須賀市生まれ。10歳の時に父親の実家である荷軽部に来てから、地区住民の温かさや団結力にひかれ、地元に就職し18歳で荷軽部青年会に入会。2013年に青年会長に就任する。少子高齢化の進む地区だが七夕会やクリスマス会などを開催し、世代間交流を通じて「和と連帯」をめざす。20年に1972年から続く地域新聞『ニカルベタイムス』が200号を達成したことから、現在、記念誌を制作中。

荷軽部青年会

1959年に設立。道路脇の草刈りなどの環境保全活動や集落での諸行事を企画・実践したきた。72年から集落の出来事などを紹介する手づくりの地域新聞『ニカルベタイムス』を年４回、集落全戸に配布し、集落の一体感の醸成に取り組んでいる。2010年に青年会の有志が結成した地域づくり団体「久慈まめぶ部屋」では、郷土料理「まめぶ」の伝承活動や県内外へのPRを精力的におこなっている。

上：巡業中の「久慈まめぶ部屋」の力士やちゃんこ番たち
下：夏の七夕会でのメインイベント「流しそうめん」を楽しむ

そしてうれしいご縁は、まだ続きます。なんとB－1グランプリのイベント終了後、「スタジオに生出演してほしい」と全国区のテレビ局からオファーを受けたのです。その日の夜中、姫路の会場から東京へ移動し、翌朝の生放送番組に出演、「まめぶ」を紹介しました。そのときのことはいまも鮮明に覚えています。郷土料理「まめぶ」が、全国に知られた瞬間です。この放送後あたりから、メディアなどで、「久慈市の郷土料理 まめぶ」として紹介されることが増えてきました。

さらに、13年放送のNHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』に「まめぶ」が取り上げられ、一躍、久慈市が全国区になりました。「まめぶ」を求めて、観光客が訪れるようになり、山形町が人であふれかえりました。自然豊かな地で「まめぶ」など素朴だが手の込んだ郷土料理に舌鼓。そして優しい住民と接し、皆さんこの地のファンになってくれます。

黒砂糖とクルミを包んだ小麦だんごのほかにもたくさんの具が入る「まめぶ」

その様子に田舎料理、田舎でなんにもないと思っていた住民たちの意識が変わりました。郷土を見つめ直すきっかけとなり、ふるさとに対しての愛着や自信につながっています。今では、「まめぶ」は、久慈市の給食でも出されるようになりました。

子どもイベントで世代間交流

2017年度末、荷軽部集落に1校だけあった小学校が閉校となり、山形町の中心部の小学校に統合されました。また、集落の周辺には高校がないため、進学や就職の際にいったん、荷軽部集落を離れてしまいます。そこで、子どもたちには集落での楽しい思い出をいっぱいつくってあげたいと思っています。

青年会は、お祭りなどのイベントで地元の炭を活用した焼きそばを提供しています。木炭の火力で鉄板を温めた後が大事です。鉄板の周りに水を加えたら、蒸気があるうちに、一気に焼き上げます。すると何とも言えない絶品な味になるんです。その売り上げを活用して、地元の子どもたちのための七夕会やクリスマス会を開催しています。

七夕会では、集落の住民が竹で手づくりした流しそうめんなどで楽しんでいます。クリスマス会では、ポニーが引くそりにサンタさんが乗ってやって来ます。行事はいずれも、子どもたちに大人気なのですが、そんな子どもたちの姿を見るのが、大人にとっても大変うれしいものです。また、地域のさまざまな世代の住民と交流することで地域の団結力強化、活気の強化につながっています。

さて、最後にインバウンドについて述べます。集落内には6戸の農家が民泊を受け入れています。グリーン・ツーリズムの推進に積極的に取り組んでおり、外国人（米国・インド・フィリピン）を含めて、年間約200人の宿泊者が集落を訪れています。つながりができた方とは、現在もSNSを通じて交流をしています。

グリーン・ツーリズムの体験メニューとしては、炭焼き体験、木質チップ工場見学、短角牛への餌やり体験、ホウレンソウ収穫体験、そば打ち体験や「まめぶ」づくりなど、いずれもこの地域ならではのメニューとなっています。体験した外国人が情報を発信することで、海外においても「まめぶ」のファンが増えており、比例して地域の知名度も向上しています。これらの取り組みを推進することにより、交流人口の拡大をめざしていきます。

今後の地域課題は、地域の活性化や環境保全の活動を継続していくうえで、次世代を担う若い世代の住民の確保、育成です。そのため、「AIを活用した婚活」の実施による、婚姻数を増やす取り組みも進めます。さらに、地域の子どもたちが地域の良さを感じることができるように幅広い世代が参加できる行事をより充実した内容で開催していきます。

子どもたちは大人になったとき、楽しかったとふるさとを想ってくれるでしょう。それが、いつか戻ってくるなどの行動につながればいいと願っています。

俳句が告げる季節

撮影地／埼玉県三芳町、田畑園の茶畑

耳包む八十八夜の雨の唄　翔

やさしい雨の音が、わたしに季節を告げようとしている。目を閉じて耳を傾ければ、あたたかな記憶に包まれる。夏にむけて、浴衣を縫い始める祖母の鼻唄は、もしや「茶摘み」だったたか。忙しい時ほど軽やかで楽し気だった祖母の姿が、ありありと見えてきた。

【季語】八十八夜（季=晩春）

立春から数えて八十八日目にあたる日、毎年５月２日ごろ。「八十八夜の別れ霜」の古い諺（ことわざ）は、この頃から気候が安定し、霜の心配がなくなることを意味する。農家では種まきの目安とされ、本格的に農事に取り掛かる節目となる。「夏も近づく八十八夜」という文部省唱歌「茶摘み」の歌詞がよく知られているが、一番茶を摘む時季である。

「米」の字は「八十八」から成り立ち、八十八回の手間暇がかかり一粒たりとも粗末にしないという考えがあった。五穀のなかでも米を大切にしてきた知恵が「八十八夜」へのこだわりにもなっている。

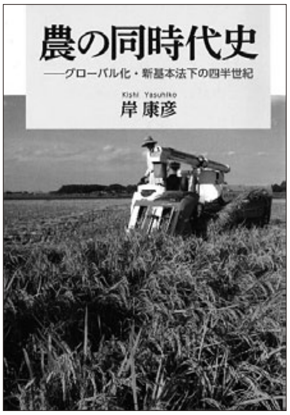
参考文献：榎本好宏著『季語成り立ち辞典』（平凡社）、『日本大歳時記』（講談社）

俳人
大高 翔
おおたか しょう
徳島県生まれ。13歳より作句。藍花副主宰、俳人協会幹事、第四句集『帰帆』にて第一回俳句大学大賞。

書評

『農の同時代史 ――グローバル化・新基本法下の四半世紀』

岸 康彦 著　創森社



2020年12月発行・2,200円

転換期の農と食を、誰が、どう支えるのか

武本 俊彦
（新潟食料農業大学教授）

前著の『食と農の戦後史』（1996年発行）は、多くの関係者に読まれ、農林水産省の現役であった私も、自分の立ち位置を確認するために何度も読み返した。本書は、その後の動きを分析し、あるべき政策の方向を示すものだ。タイトルの『農の同時代史』は「生々しく動いている現実、私自身も同時代人としてその一部に組み込まれている現実を描くのに現代史より同時代史の方がしっくりする」からと述べている。ジャーナリストの矜持だ。

本書は、旧基本法（農業基本法）から新基本法（食料・農業・農村基本法）への検討が開始される90年代からの四半世紀を対象としている。

まず、食料・農業・農村基本法については、制定から20年が過ぎた。人口減少社会となり、東日本大震災を契機に日本列島における大地震のリスクは高まり、気候変動による災害の激甚化が認識されるようになった。いずれも現行基本法が前提としていない状況だ。著者は、「食料の安定供給の確保」「農業の持続的な発展」「多面的機能の発揮」「農村の振興」の四つの理念の総括の必要性を強調し、法改正の機会を逃した農業基本法のようになることを避けるための手がかりを示している。

また、米の部分自由化に伴う食管法から食糧法への転換と、その後の生産調整、経営所得政策などは、政権交代の波間で政策の揺れがもたらされた。さらに、人口減少社会への突入のなかで、農業・農村を誰がどう支えるのか。その主体は効率的・安定的経営か、小農か、企業か。人口減少がこのまま続けば「地方は消滅する」との危機感を強調する一方で、「田園回帰」に活路を見いだそうとする考えもある。著者は悲観もしないし、楽観もしていない。でも東日本大震災を経験した若者たちの、地域に関わりたいとの意識の広がりとその活動に注目している。

本書は、このような流れを、ジャーナリスト的手法ともいうべき証言、データを紡ぎながら、農業・農村の内実と潮流を具体的に照らし出すことに成功している。その意味で、現下の政治経済の大転換期にあたり、農と食のあるべき姿をめざそうとする人々にとって、重要かつ多様な指針を示すものになると確信している。

読まれてます　三省堂書店農林水産省売店（2021年3月1日〜3月31日）

	タイトル	著者	出版社	税込価格
1	週刊ダイヤモンド2021年３/20号 儲かる農業2021	週刊ダイヤモンド	ダイヤモンド社	730円
2	農林水産六法 令和３年版	農林水産法令研究会／編	学陽書房	17,600円
3	農業・農村政策の光と影	荒川 隆／著	全国酪農協会	1,650円
4	農政改革の原点 政策は反省の上に成り立つ	奥原 正明／著	日経BP 日本経済新聞出版	1,760円
5	マッキンゼーが読み解く食と農の未来	アンドレ・アンドニアン、川西 剛史、山田 唯人／著	日経BP 日本経済新聞出版	2,200円
6	ゲノム編集食品が変える食の未来	松永 和紀／著	ウェッジ	1,650円
7	農業と経済 2021年3月臨時増刊号 ラーメンのフードシステムを読み解く	「農業と経済」編集委員会／編	昭和堂	1,870円
8	東大卒、農家の右腕になる。小さな経営改善ノウハウ100	佐川 友彦／著	ダイヤモンド社	1,980円
9	フードテック革命 世界700兆円の新産業「食」の進化と再定義	田中 宏隆、岡田 亜希子、瀬川 明秀／著 外村 仁／監修	日経BP	1,980円
10	地図とデータで見る農業の世界ハンドブック	ジャン＝ポール・シャルヴェ／著	原書房	3,080円